

令和2年7月30日

令和元年度 特別の教育課程の実施状況等について

熊本県		
学校名	管理機関名	設置者の別
長洲町立六栄小学校（外3校）	長洲町教育委員会	公

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表	学校関係者評価結果の公表
長洲町立六栄小学校	<a href="https://es.higo.ed.jp/rokuei/">https://es.higo.ed.jp/rokuei/</a>	<a href="https://es.higo.ed.jp/rokuei/">https://es.higo.ed.jp/rokuei/</a>
長洲町立腹赤小学校	<a href="https://es.higo.ed.jp/haraka/">https://es.higo.ed.jp/haraka/</a>	<a href="https://es.higo.ed.jp/haraka/">https://es.higo.ed.jp/haraka/</a>
長洲町立長洲小学校	<a href="https://es.higo.ed.jp/nagasu/">https://es.higo.ed.jp/nagasu/</a>	<a href="https://es.higo.ed.jp/nagasu/">https://es.higo.ed.jp/nagasu/</a>
長洲町立清里小学校	<a href="https://es.higo.ed.jp/n-kiyo/">https://es.higo.ed.jp/n-kiyo/</a>	<a href="https://es.higo.ed.jp/n-kiyo/">https://es.higo.ed.jp/n-kiyo/</a>

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

令和2年度（2020年度）から始まる小学校英語の教科化に向けて英語科を全学年で実施し、コミュニケーション能力を育成すると共に、諸外国の言語や文化に対する興味関心を持たせたい。また、長洲町の保育所・幼稚園は本年度から外国語指導助手（ALT）を雇い、英語教育を始めており、小学校への滑らかな接続ができるよう小学校でも英語科を実施する。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

長洲町教育大綱の「目指す姿」の1つに「ふるさとの自然や伝統・文化を愛し、グローバルな感性を持った人」を掲げている。長洲町は、外国人研修生や労働者などを受け入れる企業が多くあり、様々な国籍の人とふれあうことが多い環境にある。町内の保育園・幼稚園で実施している英語教育の成果を小学校でも引き継ぎ、さらに発展させるために、「英語科」を新設する。

(3) 特例の適用開始日

平成29年4月1日

(4) 取組の期間

令和2年3月31日まで

### 3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

#### (1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

#### (2) 実施状況に関する特記事項

英語専科教員と各中学校区に1名ずつのALTを配置することに加え、民間委託により外国人講師を配置することで実施体制の充実を図り、特別の教育課程を円滑に実施することができている。

#### (3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・実施している
- ・実施していない

町の施政方針及び教育方針、広報において、町の取組として特別の教育課程を実施していることについて説明を行っている。

### 4. 実施の効果及び課題

#### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本特例により、町内全小学校で共通の教育目標を掲げ、オールイングリッシュでの授業の中で、ゲームやアクティビティを行いながら英語に親しむ英語教育を実施した。

小学校の全教職員を対象に行ったアンケート結果より、外国人に対して積極的に話しかけることができる児童が増えた。また、英語に触れる頻度を増やしたことで、聞き取りや発音が上達したという結果が出ている。

課題としては、児童の英語の聞き取り能力の違いにより理解力に差が生じてくるため、個別に応じた指導を行っていく必要性がある。

#### (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

日本の伝統と文化を尊重し、他国を尊重し、交際社会の平和と発展に寄与する人材を育成するために、早期に英語や海外の文化に触れることは効果があると考えられる。児童アンケートの結果によると、外国人講師が話す英語をしっかりと聞こうとしている児童が9割を超え、意欲の高さが伺われる。また、高学年になるにつれて海外の話題に興味を持った児童が多かった。

しかし、英語による指示が理解できないことと、話したり発表することに対する意欲が低下することには相関関係があることも分かった。

## 5. 課題の改善のための取組の方向性

上記の課題を踏まえて、外国人を配置した授業では、児童のリスニング能力に合わせた授業の進め方が重要であると考えます。そのためには、授業でネイティブの発音による質問を繰り返す、スモールトークを増やす等に留意し、授業実施者の資質向上を図ることが必要である。